



来場者も熱心に旅行情報を集めていました

となるイスラエル特別直行便を利用した旅などが注目を集めました。

特設オープニングでは「旅行会社・観光局による各

東京・立川で「海外旅フェスタ」開催 初のイスラエル特別直行便利用のツアーも紹介

日本旅行業協会 (JATA) およびアウトバウンド促進協議会 (JOTC) は2月22日に東京都・立川市で「海外旅フェスタ in 立川」を開催しました。これは2018年度の夏に藤沢で実施し好評だった、一般消費者を対象に海外旅行情報を発信するイベントで、当日は中国やフランスなど在地の観光局や旅行会社7社が参加し、各ブースで情報の提供を行いました。

会場のためしんRISURUホールにはメインホールと特設オープニングが設けられ、旅行説明会や講座、ショーなどが開かれました。メインホールで行われた各旅行会社の担当者が登壇しての「旅のプロが語る! 2019年イチオシ旅行説明会」は、日本初

国紹介」として、観光局が自国のプレゼンテーションを行ったほか、旅行会社が得意とするDestinyネーションを紹介。旅のプロフェッショナルの視点から紹介される国々の情報に、参加者たちは興味深い面持ちで耳を傾けていました。

メインホールや特設オープニングでは、本場イタリアの歌手によるカンツォーネや中国雑技王によるスパーアクロバットショーなどのほか、実際の旅行に役立つ「思い出に残る旅写真講座」なども開かれました。平日にもかかわらず会場を訪れた参加者らは、思い通りにホールやブースを巡り、ステージでのイベントを楽しみながら旅行情報を集めていました。

- 出展示観光局
中国 国家観光局、カリフォルニア州 政府観光局、ブランドUSA、ラスベガス観光局、スペイン政府観光局、マルタ観光局、モナコ政府観光会議局、フランス観光開発機構

- 参加旅行会社
ジャルパック、びゅうトラベルサービス、日本旅行、JTB、ワールド航空サービス、阪急交通社、郵船トラベル
- ※いずれも順不同

JOTC・航空会社インタビュー 第6回

発着便の組み合わせで多様な活用を

日本とヨーロッパを最短最速で結ぶフィンエアー (AY) は、2019年夏期はヘルシンキと東京、大阪、名古屋、福岡の4都市に週34便を運航。2019年冬期にはヘルシンキ／札幌便の就航も発表されました。今後の取り組みについて小峰祐樹東日本統括支店長にお話を伺いました。

フィンエアー

小峰祐樹 東日本統括支店長



—2019年12月から就航するヘルシンキ／札幌便について教えてください。

小峰 同年12月16日から2020年3月27日 (札幌発ベース) まで、週2便で運航します。AY066は札幌発11:35、ヘルシンキ着14:10、AY065はヘルシンキ発17:05、札幌着が翌日9:00。ヘルシンキと札幌はヨーロッパと日本の最も近い都市同士を結び、飛行ルートにも無駄がなく、フライト時間は8時間55分と、ついに9時間を割ります。北海道の皆様の利便性向上はもちろん、札幌へは日本各地からフライトがあるので、日本各地から札幌経由でのアクセスも可能です。まずは4か月間の運航ですが、今後の展開次第では札幌が日本のハブとなる可能性も秘めていると思います。

—日本航空 (JL) とのアライアンスによる連携が強化されるのですか。

小峰 はい。札幌便はJLとの共同運航便で、地方空港とのアクセスの面ではJLとの連携がより重要となります。札幌自体も日本人に訴求力の高い旅行地なので、札幌でのストップオーバープランの提供など、多様な可能性が考えられます。

—日本市場全体に対する施策を教えてください。

小峰 当社の強みである東京・大阪・名古屋・福岡・札幌からの運航便を組み合わせ、日本全体での販売強化を図ります。また日本各地から出発したお客様をヘルシンキで集約し、ツアー催行率を向上させるなどの施策はすでに行っております。さらに現在フィンランド自体が映画『雪の華』で注目を浴びており、今年は日本とフィンランドも外交関係樹立100周年を迎えます。これらを追い風にしてPR展開を行ってゆきたいと思っています。

—旅行会社へのメッセージをお願いします。

小峰 当社はヘルシンキからヨーロッパ約100都市へのフライトがあり、日本各地発着便との組み合わせにより様々なアイデアが生まれます。旅行会社に常にチャンスを提供できる会社でありたいと思います。

フィンエアー
TEL 03-6810-3050

※インタビューの全文はJOTCのホームページ (<http://www.jata-net.or.jp/outbound/>) でお読みいただけます